



写真等無断転載禁止

はじめて見たウシガエルの解剖

千葉市花見川区 小学4年 伊藤 鉄士（校正 父 伊藤 彰）

谷津田でウシガエルの解剖をしました。解剖は、田中先生がアドバイスして、学生の鈴木郁也さんがやりました。

【解剖の手順】

料理で使う、むしきのなかに「ますい」のような薬をしみこませたガーゼを入れて、ねむらせました。ねむったウシガエルを出して、ハサミで皮とまくを切りました。



切り方は、はらをタテに切って前足の皮をヨコに切ってピンでとめ、後ろ足も同じようにやっています。観察していると、卵巣が出てきて、メスだとわかりました。内ぞうをすべて取り出すと、せぼねが出てきました。口を開けてペロを見ました。歯はないように見えたが、さわるとざらざらヤスリのような細い歯がありました。少しいたかったです。

【解剖を見ておどろいた】

心ぞうをさわったら、ピクピクして生きていると思った。カエルは、体の中も外もつめたいと思

った。胃からドジョウが出てきて、びっくりした。せぼねが意外に細かった。

【解剖道具がすごかった】

田中先生は、解剖道具を入れる工具箱を自分で作っていた。道具はメスと、数種類のハサミとピンセ



お墓を作って埋葬しました

ットがあった。メスは刃が取りかえ可のうだった。ハサミは、そうじできるように分解できて、それぞれに番号がついていて、番号が合うものが組み合わせられる特別なものだった。そのハサミの一つは、内ぞうをきずつけないように、下の刃が丸くなっていた。

【ウシガエルのこと】

ウシガエルがかわいそうだと思った。ウシガエルを殺すのは、ウシガエルが悪いのではなくて、勝手に人間が外国から日本に持ち込んだからだ。ウシガエルには、つみが無いと思った。

—<ちば環境情報センターより>—

2022年6月5日の下大和田観察会を終えて、午後にウシガエルの解剖をおこないました。下大和田の谷津田にはウシガエルが生息しており、谷津田に棲む貴重な生きものたちを食べてしまうため、これ以上増やさないように水路にわなを仕掛けて捕獲、殺処分しています。しかし、カエルに罪はありません。殺処分する前に教材として解剖し、みんなで「生命の意味を考える場」としたいと考え解剖を実施しました。

やつだ草なげ大会

6月4日の田んぼの草とりでは、田んぼにはえてきたざっそうをいっぱいにとって、田んぼがきれいに

千葉市中央区 小学1年 小嶋 航生

なったよ。草とりのあとで、みんなで田んぼ草なげ大会をしたよ。かぞくたいこうでたたかって、ぼく



航生君の2投目、草玉(矢印)は見事にバケツに入った
は1年生だから、すこしちかくからなげさせてもら
ったよ。1回せんでなげるときは、できるかふあん
だったけど、2回めになげたとき、バケツのうちが

わにくっついてゴールインしたときは、びっくりし
たよ。2回せんは3かぞくでたたかかって、パパがな
げた草が、ふちにあたってゴールインしたよ。ぼく
よりもパパが大よろこびだったよ。でも、もうひと
りのこう学年のおにいちゃんもゴールインしたか
ら、3回せんになったよ。3回せんは、ぼくがさい
しょになげて、きんちょうしないでふつうになげら
れたよ。草がと中でバラバラになりながらゴールイ
ンして、とてもうれしい気持ちになったよ。1たい
0でぼくがかったよ。けいひんは、さいしょにえら
べるから、めっちゃまよったけど、キャンプようの
おはしにしたよ。なつのキャンプがたのしみだな。
つぎもゆうしょうめざしてやってみたいな。

谷津田大福帳の再開

6月4日の田んぼの草取り行事から谷津田大福帳を
再開しました。

11年前に谷津田大福帳のイラストを会員の江澤芳
恵さんが描いてくれて、小学校5年生だったその長男
の元太君が消しゴムはんこでカブトムシを作ってくれ
ました。2022年から再開する大福帳は復刻版です。

あの時は大福帳を持ってくるのを忘れるなどで1年
くらいしか続かず、長らく森の倉庫でハンコは大事に
保管されていました。

前回と変えた点は谷津田運動会の点数で、1位は3
点、2位は2点、3位は1点に上げました。運動会で
優勝するのはかなり難しい。だんごころころレースは
早くころがるだんご作りを練習していたが、10分前に
エントリーした7歳の女の子が勝った。取った草を3
m離れた的に入れる草投げの入れ競争は6家族対抗で
激戦となりプレーオフにもつれ込み、1打目目的に入
れた6歳の男の子の家族が勝った。この家族は1回戦

市原市 南川 忠男

も含め、的中が3回もあった。スタンプはクワガタ、
トンボなど下記5

種から選
べます。

谷津田に
来て、押
すのも楽
しみにな
るよう谷
津田運動
会を企画
していき
たいと思
います。



谷津田大福帳表紙とハンコ

禾(のぎ)の秘密を探れ! ~米についての針、なんのため?~ ②

千葉市中央区 緑町中学校1年生 小橋 里菜 (編集:母)

5. 実験と観察③「バケツ稲の観察」

2020年4月~10月 2021年4月~8月

自宅の庭で古代米4種類をセルトレイに種
蒔きし、その苗をバケツに田植えして「禾あり」「禾なし」の種もみの成長に違いがあるか
調べました。かなりの時間を費やして草丈・
葉齢・葉幅・葉身長・茎数の様子などを観察
しましたが、明確な違いは見られませんでした。

2020年秋に刈り取った稲穂は、玄関に吊る
してその後の観察に役立てました。意外にも、
これが後で役立ちました。



観察方法



バケツ稲



1年干した稲

6. 実験と観察④「マイ田んぼでの観察」

2020年5月～10月 2021年5月～8月

マイ田んぼを借りて、網代さんや平沼さんに手伝ってもらいながら緑米とコシヒカリを育て、観察しました。「禾あり」「禾なし」の種もみから発芽して育っていく稲を比較しながら観察しましたが、大きな違いは見られませんでした。



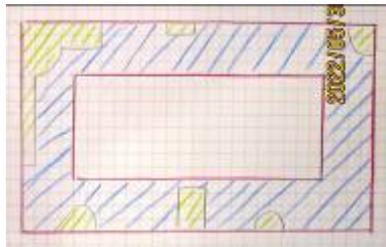
田うえの様子

また、出穂したところで禾を鎌で切りとり「禾がついたままの穂」と「禾を切り取った穂」を比べて観察しましたが、虫食いの量などの違いは見られませんでした。

7. 実験と観察⑤「イノシシに荒らされたマイ田んぼの観察と禾のちくちく実験」

2020年8月29日、10月18日

8月29日、マイ田んぼのコシヒカリの稲の一部がイノシシに荒らされていました。稲が食べられたり、踏まれて稲穂が泥に浸かってしまったりしました。一方、まだ実っていないからか緑米に被害はありませんでした。9月13日にコシヒカリの稲刈りを行いました。



イノシシに荒らされた田んぼのマップ

その後、10月18日に古代米の田んぼがイノシシに荒らされたので、その様子を観察しました。すると、みんな

で育てている赤米は、ほとんど全て倒されていたのに、緑米は被害が少ないことが分かりました。また、イノシシに荒らされた田んぼのマップを作ってみると、緑米はイノシシが畦の近くからお米を食べていて、あまり田んぼの奥の方に入っていないことが分かりま



禾のちくちく実験

した。

これは禾が関係しているのかもしれないと思い、イノシシになったつもりで禾を顔に当てて「ちくちく実験」を行いました。すると、赤米の禾は顔に当てるとふさふさしてくすぐったかったのですが、緑米はちくちくして痛かったのです。緑米の禾が目や鼻に入ると嫌だろかな、と思いました。また、緑米は背丈が低いので、禾のちくちくはイノシシのお腹に当たるでしょう。そこで、緑米の禾はイノシシ等が米を食べたり、田んぼの奥に入って荒らしたりすることを防いでいるのではないかと考えました。

8. 実験と観察⑥「赤外線カメラによる動物の観察」

2021年8月

「禾は鳥などから食べられないようにするためにあると言われている」と本などに書いてあったので、スズメなどから身を守るためにあるのではないかと予想しました。そこで、網代さんの真似をして赤外線カメラを設置してマイ田んぼに来る動物の様子を観察しました。

すると、キジが毎朝マイ田んぼに朝食に来ていることが分かり、大きな口を開けて稲穂を食べている様子も確認されました。今まで明らかにイノシシとは違う食べ方で先端が食べられている稲穂が数多くあったのですが、それはキジの食べた跡だということが、この観察によって分かりました。



毎日来ていたキジ2羽



キジに食べられたと思われる稲先端だけが食べられている

一方、スズメはカメラに写っていませんでした。様々な文献を調べたところ、スズメは稲穂の頭が垂れている状態で横から嘴を入れて器用にもみを外してなかの種だけを啄むので、禾が目当たることはなさそうでした。そこで、禾はスズメから身を守るためにあるのではないということが分かりました。(つづく)

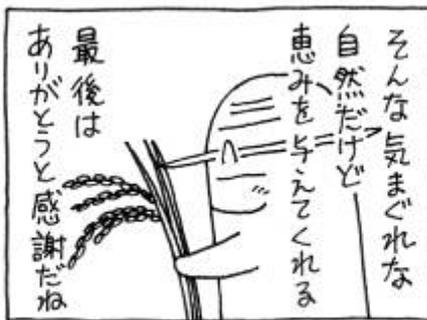
新浜の話53 ～大黒柱さん～

野鳥病院や保護区の維持管理、観察会をはじめとした利用者対応、鳥や水質などの調査等々、仕事はきりもなくありました。

たくさんボランティアさん（「遊びの延長なん

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

だ。ボランティアなんて意識はないよ」とは言われましたが)に支えられてはいたものの、恒常的な業務については蓮尾2名ではどうがんばっても手が足りません。



つやまあきひウェブサイト
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

旧観察舎のオープン当初は百瀬邦和さん（現在は釧路市の認定NPO法人タンチョウ保護研究グループ理事長）にずっとお手伝いいただき、1980年代には市川市正規職員の宮島君江さん（観察舎の清掃、利用者対応ほか雑務全般）と館長さん（1990年代には館長職はなくなり、周辺の雑務全般に市職員富田孝さん）、このころには学生さんほか、週何名かのバイトさんに来ていただいていた。

1991年末になって、後に「大黒柱1号さん」と呼んだ石川一樹さんが来られました。「鳥が好き」「動物の世話が好き」という方が多かったバイトさんの中で、彼は手を動かしてもものを作るのが好き、という異色の存在。やりたいことを探す途上だったのでしょう。一樹さんは文字通りの天才肌で、どんなことを頼んでも、頼んだこと以上に隅々まで気を配り、みごとに仕上げてくれました。それまでは、何事も「誰がやるの」という嘉彪のひとつで、先に進めなかったものです。一樹さんのおかげで、いろいろなことが前向きに進み始めました。ただし、彼は人と群れるのは苦手。心を許してもらったことはほとんどないような気がします。

彼が「ずっとここで仕事をしたい」と言ってくれた時、それまで漠然と考えていたことが具体的になってきました。1980年、アメリカのウィスコンシン州にあるICF（国際鶴財団）にボランティアとして研修に行っていた百瀬邦和さん・茂田良光さんが帰国するにあたって、山階鳥類研究所の尾崎清明さんとアメリカ各地の鳥類保護に関する施設や博物館などをめぐる旅行にご一緒させていただきました。その時、創設者のジョージ・アーチボルド博士の知己を得て、ICFが行っている様々な活動を行徳でもやってみようという夢を持っていたのです。興味を持って活動を体験してみたいという若いスタッフがいたら、百瀬さんたちのようにボランティアとして送り込みたいと思っていました。一樹さんに勧めてみたところ、乗り気になってくれたので、ささやかながら資金援助をして、アーチボルド博士に受け入れをお願いしました。

1994年4月に一樹さんは半年の予定でICFに向けて出発しました。この年の9月、たまたま私は千葉県「女性の翼」という研修旅行の40名ほどのメンバーのひとりに選ばれ、同じくたまたまなのですが、この年初めて「女性の翼」の訪問先にICF（千葉県とウィスコンシン州は姉妹州という関係にあったので）が含まれて、研修中の一樹さんが一行を案内するというおまけまでつきました。お母さまの石川幸子さんはじめ、アーチボルド博士や奥様の松本恭子さん（惜しくも今年の3月11日に新型コロナの療養中に逝去されました）とも共謀して、私がICFに行くことは秘密にしておき、彼をびっくり仰天させることに成功しました。「蓮尾さん？俺、まだ寝てるのかな」との彼の言葉を伝えると、ジョージ（アーチボルド博士）は大喜び。

一樹さんはアメリカでの生活が気に入って、ICFのスタッフにも愛されて、結局1年間を過ごした後、その後も渡米して3か月を過ごしました。彼がいなかった1994年にカバーに入ってくれたのが、現在の「観察舎長さん」と佐藤達夫さんです。

【発送お手伝いのお願い】ニューズレター2022年 8月号（第300号）の発送を8月5日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな _____ 氏名 _____ 男 女 Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

編集後記: 記録的な早い梅雨明けと猛暑つづきの夏到来です。今月号のニューズレターは、記事5本のうち3本が小中学によるものです。これもある意味記録的なことです。ニューズレター8月号は通巻300号の記念号になります。これからも、ちば環境情報センターの活動にご協力お願い申し上げます。
mud-skipper

☆令和4年度期 あすみ小学校たんぼ田植え実施 2022年6月1日(木)

6月1日、あすみ小学校の田植えが行われました。100名を超える子どもたちとその保護者方によるボランティアさん、先生方が集まって、とても賑やかな田植えとなりました。作業の進行もスムーズに運び広い小学校たんぼはあっという間に終わりました。カモ被害も無く元気に育ってほしいです。

☆第205回 小山町 Y P P 「古代米の田植え→小学校たんぼの畦の整備」 2022年6月12日(日)

田植えの進行が順調に進み、全ての田植えを終えていたため、予定を変更し小学校たんぼの畦の整備を行いました。2019年の台風で崩れた露頭の土砂にて土嚢を作り、何度も運びながら軟弱化していた畦に配置しました。これで子どもたちも安心して歩けると思います。参加2名(大人2名)

【谷津田・季節のたより】

＜下大和田町＞ 報告：田村光範

6月 下大和田ではホトトギスの声が初夏の谷津田に響き渡っています。今年は梅雨入りが早く、日照が少ない為、稲の成長が例年より少し遅れているようです。14日に下大和田の谷津田にニホンジカが現れました。ここでは初めての発見です。畔についていた足跡がイノシシかと思っていたのですが、暗視カメラには鹿が写っていました。シカもたんぼを荒らすので今後影響が出ないか少し心配です。

＜小山町＞

6月 5日ホタルブクロつぼみ、8日に満開。(たんぼぼ)、10日～オオシオカラトンボ確認。シオヤトンボは消え、シオカラトンボが主流。(高山)、12日あざみ谷津にキセキレイ。(たんぼぼ)、19日～夏の赤とんぼショウジョウトンボを観る。赤とんぼの仲間(ノシメトンボ、アキアカネ、ナツアカネ、コノシメトンボ、マユタテアカネ)確認(高山)、23日～キイトトンボ、カワトンボ確認(赤シャツ親父)、27日ニイニイゼミ初鳴き。(たんぼぼ)、30日ねむの木開花(たんぼぼ)

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

＜下大和田谷津田＞

・森と水辺の手入れ

日時：2022年 7月17日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：森の散策路の整備をします。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・お楽しみ会

日時：2022年 7月23日(土) 9時45分～12時

内容：普段活動している谷津田で、魚採りやザリガニ釣り、フィールドビンゴなどを楽しめます。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

・第4回 森の手入れ

日時：2022年 7月24日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：落ち葉を集めてカブトムシが卵を産んで、幼虫やさなぎが育つ場所を作ります。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第280回 Y P P 「かかしづくり」

日時：2022年 8月6日(土) 9時45分～14時

内容：竹を切り出し、たんぼの守り神のかかしを作ります。

持ち物：かかしに着せる古着、長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費：米づくり年間参加者以外300円(小学生以上) ※持ち物は6月19日と同じです

・第271回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時：2022年 8月7日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：こども達の大好きなカブトムシやクワガタムシ、トンボやセミなど夏の虫の季節です。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、

ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：100円

＜小山町谷津田＞

・第206回 小山町 Y P P 「畦と水路の整備」

日時：2022年 7月16日(土) 10時00分～ ☆小雨実施。

内容：モグラ穴による漏水や、流失土で埋まった水路の復旧を行います。一般の方の参加も若干名受付ます。

場所：りんどう広場

参加ご希望の方は、tomizo_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

